

お口の状態は大丈夫？ 第6の合併症「歯周病」

糖尿病の合併症はさまざまありますが、その中に歯周病があることはご存じでしょうか。実はこの2つは関係が深く、糖尿病患者では歯周病の対策が重要です。

糖尿病患者では 歯周病が多い？

歯周病は糖尿病の第6の合併症と言われており、1型、2型ともに健常者と比較して有病率が有意に高いことがわかっています。また血糖マネジメント不良が歯周病を重症化させることもわかっており、HbA1c 7%以上の糖尿病患者では歯周病の進行と歯の喪失リスクが高まるということが報告されています。残存歯数と糖尿病合併症の関連も知られています。

糖尿病患者で歯周病が増悪しやすい理由としては、口渇により唾液分泌が減少し口腔内の浄化作用が低下すること、易感性による歯周組織の回復の遅れなどが考えられています。

糖尿病と歯周病は 相互に影響する

歯周病が糖尿病の発症や悪化を引き起こすこともわかっています。歯

周病菌に対する炎症反応が全身の

炎症へと増幅され、インスリン抵抗性へとつながると考えられています。

ほかに、歯周病菌が産生する酵素によって、血糖調節に関わるホルモン

であるインクレチンが分解されてしまうことも最近の研究でわかりました。

実際に2型糖尿病において歯周病治療を行うことでHbA1cが改善

することが多数報告されています。このように、糖尿病と歯周病は相

互に負の影響をもたらすため、同時に治療を進めていく必要があります。

問診や療養指導の際に患者の口腔衛生の状態もチェックするようにしましょう。

歯周病の対策 ぜひ医科歯科の連携を！

歯周病の対策には、やはりまず、患者自身による毎日のブラッシングで歯垢を除去することが重要です。うがい薬を併用してもよいでしょう。ただ、それだけでなく、歯科医の受診による定期的な歯石除去が必要に

なっています。

令和6年度の診療報酬改定では、生活習慣病管理料Ⅰ・Ⅱの算定要

件の一つに、「糖尿病の患者について、歯周病の診断と治療のため、歯科

を標榜する保険医療機関への受診を促すこと」が追加されました。歯

周病は無自覚であることも多いです。歯肉の出血、腫れが確認され

る場合は歯科医の受診を勧めるようお願いいたします。

「糖尿病連携手帳」に「眼科・歯科」の欄がありますので、歯科医との診療連携の際は記入をお願いします。

「検査計画表」に「歯科受診」の欄が新設されました。こちらでもぜひ

ご活用ください。

監修

関東労災病院
糖尿病・内分泌内科 前部長
浜野 久美子 先生



ニュース まとめ読み

最近注目のニュースを
ご紹介します。

詳細はこちら
糖尿病リソースガイド
<http://dm-rg.net/>



世界初 週1回投与の持効型溶解インスリン製剤 「アウイクリ注」発売

DM RG

ノボ ノルディスク ファーマ(株)は、「アウイクリ注 フレックスタッチ 総量300単位」(一般名:インスリン イコデク(遺伝子組換え))を発売しました。本剤は世界初の週1回投与の持効型溶解インスリン製剤となります。注射回数が減るため、治療に対する心理的な負担軽減や注射実施率の向上が期待されています。



GIP/GLP-1受容体作動薬「ゼップバウンド」 「肥満症」を適応症として承認取得

DM RG

日本イーライリリー(株)と田辺三菱製薬(株)は、GIP/GLP-1受容体作動薬「ゼップバウンド」(一般名:チルゼパチド)について、「肥満症」を効能・効果として、製造販売承認を取得したと発表しました。本剤は糖尿病薬として2023年に発売された「マンジャロ」と同成分となります。



「糖尿病治療ガイド2024」が発刊 日本糖尿病学会

DM RG

今回の改訂では、GIP/GLP-1受容体作動薬の追加など、最新の薬剤情報にアップデートされ、「2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム(第2版)」に基づいた経口薬療法、注射薬療法について解説されています。また、「緩徐進行1型糖尿病の診断基準」や「糖尿病患者の脂質管理目標値」「糖尿病性腎症の病期分類」など、最新の基準・目標値の内容を反映しています。



医療者からの眼科受診勧奨 認識した患者は網膜症検査実施率が高い

DM RG

国内の糖尿病患者について眼科受診率は半数に満たないという報告がありますが、今回筑波大学らの調査により、医療者から眼科受診を勧められた認識をもつ糖尿病患者は、糖尿病網膜症の検査の実施率が2倍以上高く、また望ましい眼科受診の頻度を正しく理解している割合も高いことが明らかになりました。



4コマ劇場

糖尿病看護の“あるある”体験談

実際の体験談を
4コマ漫画化！

第20回「よく洗ったがゆえに!？」

埼玉県 40代 ふうさん(看護師歴 28年)

視力低下のある患者へのフットケア指導の際、「足はよくゴシゴシ洗ってくださいね」と説明。次回外来時に聞くと「ゴシゴシって言ったからちゃんとたわしで洗ったよ。触るとガサガサするし汚れてると思ってよく洗ったよ」と言われ、足は擦り傷だらけでした。患者との認識の相違を実感し、今では写真や動画で洗い方を説明するようにしています。

Nurse's advice

木下Ns.の一言アドバイス

私も「かかとがざらざらしているので軽石でこすったけど取れなかった」と言われたことがあり、「こすればよくなるという考えではないんですよ」と説明したことがあります。また「よく洗っています」と言われても、実際は指の間などに水滴が残っていて、びらんから感染を招くこともあります。患者の認識ではなく、実際の行動を確認することがフットケアでは大切です。

木下 久美子 先生(関東労災病院 糖尿病看護認定看護師)

詳細はこちら▼

体験談募集中! /

皆さんの「元気になる」「ほっとする」エピソードをお待ちしております。採用された方にはプレゼントも!



教えて、MRさん!

糖尿病患者さんのフットケア

糖尿病では、神経障害や末梢動脈疾患を背景に足病変が起こりやすくなることが知られています。糖尿病診療ガイドラインでも、少なくとも年に1回は定期観察を行うことや、すべての糖尿病患者さんや家族に対して早期から予防的なフットケア教育を行うことが推奨されています。

株式会社三和化学研究所では、患者さんへの説明やフットケアの際にご活用いただける資料をご用意しております。

学ぼう! 糖尿病シリーズの冊子をご要望の際は弊社MRへご依頼ください。

また、公開ウェブサイトでも冊子の内容を確認・ダウンロードいただけます。

株式会社三和化学研究所のフットケア関連資料

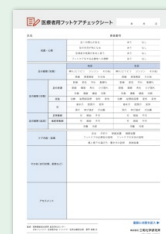
学ぼう! 糖尿病シリーズ
フットケア


ずっと自分の足で歩くために、フットケアの大切さやケアの方法を説明しています。

学ぼう!
糖尿病シリーズは
こちら※1▶



※1 冊子版はサイト上で閲覧・ダウンロードが可能です。順次公開中のスライド版のダウンロードにはメルマガ会員登録が必要です。
※2 ダウンロードにはメルマガ会員登録が必要です。

医療者用
フットケアチェックシート 患者用
フットケアチェックシート


医療者が、患者さんの足の状態を確認する際に活用いただけます。



患者さんにお渡しし、ご自身で足の状態や日常生活の注意点を確認していただけます。

フットケアチェックシートはこちら※2▶

